

公益財団法人応用科学研究所創設 100 周年記念式典 理事長挨拶

只今より、公益財団法人応用科学研究所創設 100 周年記念式典を執り行います。

それでは最初に主催者を代表いたしまして、本研究所理事長の西川禎一より皆様にご挨拶申し上げます。

西川理事長、どうぞよろしくお願いたします。

公益財団法人応用科学研究所理事長の西川でございます。

本日は私どもの研究所の創設記念行事を催すに当たりましてご案内をさし上げましたところ、大変ご多用中にも拘らず多数ご来臨賜りまして改めて厚く御礼申し上げます。特に元京都大学総長長尾真先生には何かとご多忙の所お出ましいただき、後程ご講演を賜ることになっております。誠に有難うございます。

さて、100 年前すなわち 1917 年（大正 6 年）11 月 8 日に現公益財団法人 応用科学研究所の前身にあたります財団法人青柳研究所が創設の認可を受けました。提唱者は京都大学電気工学科教授の青柳栄司博士であります。財団発足後は青柳博士自らが理事長に就任されました。青柳博士は前年 1916 年に米国エジソン研究所を訪問され、世界の文化と社会の発展に寄与する発明家エジソンの功績に深い感銘を受け、大学における研究教育に加え、産学協働の拠点としての研究所を設立すべきであるということで献身されたのでございます。その後、時代の推移とともに変革の必要が生じまして、後事を託された同じ京都大学電気工学科教授の鳥養利三郎博士、鳥養先生は後第 13 代京都大学総長を務められたのでありますが、その鳥養先生は当時の国家的要請に応え、科学・工学の広い領域にまたがる総合研究・調査の体制を整えるべく京大各部署の専門家に研究を委託する体制を構築されました。同時に名称も改めて、1939 年（昭和 14 年）11 月 16 日に鳥養先生を理事長とする財団法人応用科学研究所が発足致しました。またその後、国による法人改革の求めに応じて 2011 年（平成 23 年）4 月 1 日公益財団法人 応用科学研究所に移行いたしまして、本日に至っております。

このあと、本法人の歴史につきましては木村副理事長より、また進行中の研究開発プロジェクト例につきましては久保常務理事より、それぞれご説明を申し上げますのでよろしくお願い申し上げます。100 年間に及ぶ本法人の活動は創設者青柳博士、中興の祖鳥養博士を初めとして実に多くの人々の創意と献身的努力、また各種公的機関及び民間企業のご支援とご協力によって支えられてまいりました。それによって本研究所は産学公連携の拠点として運営され、また総合理工学に基づいて課題の解決策を創出するというフィロソフィーを築いてまいりました。関係各位に対して、改めて深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

さて、我が国における近代の科学技術の研究開発活動、また各種産業活動は国際的水準に照らし残念ながら優位にあるとは申せません。サスティナブルリーダーであり続ける為

には様々な方策が必要でありましたが、思いつくままに挙げますと下記の如くでございます。

すなわち、

- (1) イノベーティブな研究開発に対する公的助成の拡充
- (2) 関係専門家、特に若手の意欲と情熱を醸成する環境の整備
- (3) 大学における教育研究活動の改革と産学連携の活性化
- (4) 高度化する技術がもたらす可能性のある技術弱者（十分にその恩恵に浴せない人々）が増えることへの抑止
- (5) 地域社会及び地球社会の活性化と発展への寄与

そういったことがあげられるのではないかと考えております。

本研究所はこのような観点を踏まえつつ、公益財団法人たるの自覚を高め、産学公連携の結節点の役割をより充実させたいと考えております、今後とも何卒一層のご指導・ご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。以上をもちましてご挨拶とさせていただきます。どうも有難うございました。

平成 29 年 11 月 11 日

公益財団法人 応用科学研究所
理事長 西川 禎一